

第321号
平成27年

5月11日

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

見守り活動を行なっています。

東京新聞南千住専売店

「時間との勝負です」

草木も眠る丑三つ時の2時半、東京新聞朝刊が南千住専売店に届きます。折込をして2時50分には読者の皆さんの家にお届けに出発します。雨天時は、一台の機械で新聞を一部ずつビニール掛けを行ってから3時10分に出発です。5時半には全て配達終了しています。その後は、新聞の折込作業や集金などの業務のほかにお客様対応で時間が過ぎ、夕刊の配達時間となり終了後はまた集金に出て行きます。新聞専売店は休刊日以外一年中このような流れで一日が暮れて行く激務の日々です。

「見守り活動しています」

そんな過酷な仕事の中、荒川区新聞販売同業組合では荒川区と協定を結び、区から見守り要請のあった満65歳以上のひとり暮らしの高齢者世帯等を対象とした見守り活動を行っています。

荒川区は高齢者比率が他の区よりも高く、高齢者のひとり暮らしや高齢者だけの世帯が多い区です。

二日間新聞が溜まっていたら声

かけしています」

東京新聞南千住専売店では異変に気がついた段階で区や大家さんに連絡して当事者の方の安否確認をお願いしています。

この見守り活動により室内で亡くなっていた方を早期に見出したことも何件かあります。

「徘徊していた方を見つけてご自宅に送って行きました」

南千住専売店中村所長はほとんどの読者のお宅に集金に伺っているため、読者の方の顔が判っています。おかしいなど異変に気が付き、自宅に帰ることもできずにいた高齢者の方を送ったこともあります。

「地域の方のお役に立てれば」

天王祭の時や盆踊り大会の時には、どなたでも使用していただけるように販売店のトイレを開放しています。

見知らぬ土地で専売店を始めて11年、二人の男の子を産み育てながら店番のほかに商店街や町会、女性の一人住まいの方の集金までされている奥さんは「ボタンがつけれない」と針と糸持参して来られた方にボタン付けをしてあげたこともあるそうです。

機械化・効率化が進む社会の中で、新聞業界は体制が変わりません。テレビや

インターネットでニュースを見るから新聞を読まないという方も増えています。

しかし、じっくり読み考える時間を与えてくれるのが新聞です。

また、専売店の地域の方に開放された間口、日々皆さんのお宅に伺う見守りの目は、どこの公的機関よりも優れております。

見守りをして頂きたい方は専売店にお問い合わせください。ご相談に伺います。



何でもご相談ください
中村所長夫妻

☆東京新聞南千住専売店☆

〒116-0003

南千住5-41-8 (コツ通り商店街)

フリーダイヤル0120-34-4481

TEL 3803-1781

FAX 3803-1783 [24時間受付]

営業時間(不着等、お問い合わせのご連絡)

月～土曜：6～19時30分

日曜：6～10時 17～19時30分

休刊日：12～19時30分

※19時30分以降、又、留守の場合には留守番電話、もしくは転送電話での対応となりますのでご了承ください。